

しまの情報紙

2008 秋・冬号

愛ランドまつやま

発行：松山離島振興協会 / 文責：会長 田中政利

【お問い合わせ先】

事務局長 俊成雅直 Tel：997-2189 メール：airando-matsuyama@rhythm.ocn.ne.jp



忽那9島の楽しみ方をボランティアガイドが徹底解説します

ガイド研究会が
忽那諸島の魅力を
完全実況!



「坂の上の雲のフィールドミュージアム活動支援事業」の最終年となる今年、松山離島振興協会では、夏から秋冬へかけ、ボランティアガイドの養成に本格的に取り組んでいます。

近い将来に開催をめざす松山島博覧会『しまはく』。松山離島振興協会の前身である「みんなのまつやま夢工房」での提言を協会メンバーは今に引き継ぎ、さまざまな試みを実証実験的に展開しています。その中で、特に叫ばれてきたことが、島の案内人の育成でした。ボランティアガイドを各島に配置し、その人たちが島を訪れたみなさんの水先案内を行います。案内役のみなさん方が、訪れたお客さんたちと共に島のことを語らい、共に楽しむことができましたら、誰かにやらされているという意識ではなく、自発的な、しかも楽しみながらのライフワークとして、ボランティアガイドの役に励めるのではないかと思っています。

今夏、ボランティアガイド養成事業として、協会内部に「忽那諸島ガイド研究会」を設立しました。各島から研究会への参加希望者を募り、皆で島をめぐる、それぞれの島の住人から順に島自慢を披露していただきます。参加者には、それら講釈の聞きかじりが、次第に島うんちくの蓄積となつて、知らず知らずのうちにA級・S級のガイドへと昇格していけるというわけです。

また、「島四国」が名物となつている興居島では、地域性等を考慮し、先の研究会方式ではなく、「お先達養成」に特化した講座形式の事業形態でボランティアガイドの養成に取り組みました。第1回はベテランお先達の山内明光さんを、また第2回目は由良観音寺のご住職をそれぞれ講師にお迎えし、意見交換の形で、「島四国」の意義やお先達のあり方などを考えるところにも、今後あるべき「島四国」の姿を参加者全員でつぶさに検証したところです。

このように、協会では恵まれた地域資源を最大限に生かす術として、今後もボランティアガイド養成に努めてまいります。この人材育成の取り組みばかりは、一朝一夕に達成できるものではありませんので、長いスパンで根気良く、これら活動を続けていきたいと思つています。なお、養成事業自体のあり方は、できるだけ門戸を開け、より多くの方にご参加いただきたいと思いますので、関心がある方は協会までお気軽にお問い合わせください。

「秋の島めぐりクルージング」レポート

中島の歴史と文化にふれる旅

平成18年度から忽那諸島9島をめぐる『島めぐりクルージング』を順次開催してきましたが、今秋、最後の島となっていた「中島」へ市民のみなさんを誘う、標記ツアーを開催しました。定期便を利用した今回の企画には120人余のご参加をいただき、中島ならではの歴史・文化、そして味覚をご堪能いただきました。今後も、島に関心を持っていただける方との接点を大切に、意見拝聴の機会拡大に努めます。



華やかなやっこの道中を再現した宇和間の祭

忽那諸島最大の島「中島」。忽那水軍が残した足跡に加え、多くの島民が暮らしてきた生活の歴史や文化が十一集落の随所に残されています。それらの一部分にでもスポットを当て、中島の大きな魅力を感じていただきたいと企画したのが、今回のクルージングです。今回のツアーでは、中島の「歴史と文化」に焦点を絞り、忽那家に代々伝わる古文書の特別展示と、南北朝期忽那氏の活動に関する、湯築城資料館石野弥栄館長の特別講演のほか、宇和間地区の天満神社に平安時代から受け継がれている、菅原道真公ゆかりの【やっこ振り】という祭の伝統行事を、ツアーにご参加いただいたみなさんに存分に楽しんでいただきました。

松山市の「坂の上の雲フェイールドミュージアム活動支援事業」の採択を受け実施の本クルージングツアーも、今回が最後の開催となりました。初年度には安居島・睦月島・野忽那島めぐり、昨年度は怒和島・二神島・津和地島・釣島をめぐるツアーと、興居島の【島四国】を堪能する定期利用の企画をそれぞれ実施させていただきました。最終回となる今回、これまでの実証実験の集大成となるべき企画を掲げ、盛り沢山の内容で臨んだものです。初年度は野忽那地区の御輿、昨年度は上怒和地区の獅子舞と、津和地区のだんじりを見物いただき、かなりの反響をいただきましたので、今回、開催日を重ねたのは、宇和間地区の祭【やっこ振り】でした。正式には【奴振り】の字を当てるようですが、学問の神様として名高い菅原道真公が、京の都から九州は大宰府へと流される道中、潮待ち、風待ちで立ち寄った宇和間地区で、地元の人々が道真公を慰めるために奴を演じたのが始まりと伝えられています。千年を超える歴史を持つ宇和間の【やっこ振り】は、参加者から大いなる感動の声をいただき、演者のみならず大勢の観衆を前に、いつも以上の華麗な所作で、緩やかな歩をしっかりと踏みしめているようでした。

これらメインの企画に加え、神浦地区のこまコレクター田村喜久一さんをお願いし、紹介ビデオの上映、並びにこまのコレクション展示とその説明をいただいたほか、上怒和地区出身で、木彫り人形作家田中あつしさんの作品展示も行っていました。田中あつしさんは、現在、中島大浦にアトリエを構え、創作活動中ですが、本紙最終ページの中央に毎号掲載の、中島町閉町式の記念はがきを作成された方でもあります。さて、報告が最後になりますが、バイキング形式で提供した昼食は、本当に大絶賛をいただきました。味付け、料理の構成、接客など含め、多くの点でご満足いただけたようです。今後、島の食を提供する上で、最も参考となる実験結果が得られたとともに、食の重要性をさらに印象付けるものとなりました。ご協力いただきましたみなさん、ありがとうございました。心からお礼申し上げます。



バイキング形式の昼食に大満足！

“漁師に転職、家族が一緒に”



野忽那島の立花啓一さんご家族

平成三年から十五年間勤めた役所の仕事を転職、野忽那島でプロの漁師として暮らす立花啓一さんを紹介します。

中島町役場の職員だった啓一さんは、平成十七年一月の市町合併で松山市職員に。市本庁舎にある財政課へ通うため、島を出ての一人暮らしを始めました。やはり、離れて思うのは家族のことばかり。最愛の奥さんと3人のお子さんを島に残しての生活にピリオドを打ったのは平成十八年三月末のことでした。五月には息子さんの名を付けた新造船「佑介丸」での漁を生業とした生活へと一転しました。現在は、ご両親、奥さんの久美さん、中3の結衣さん、中1

の由希さん、小6の佑介くんと7人暮らしですが、実際はお姉ちゃん2人が中島中学校の寮生活をしているので、佑介くんはちよつと寂しそうです。

啓一さんの漁は建網漁。ホゴ・メバル・鯛などの底モノをねらいます。建網漁は潮が大きいとできないため、月のうち半分しか操業できません。その間、啓一さんは伝馬船で蛸壺漁や一本釣なども行います。漁師の家に生まれた啓一さんは、父・吉清さんの背中を見て育ちました。漁の先輩である野忽那漁協の尾崎組合長は啓一さんのお姉さんの旦那さん。野忽那島の漁業を共に支える同志でもありません。夜中の仕事にもなる漁には、父・吉清さんと母・弥生さんも参戦してくれています。近年の魚価の低迷、漁獲量の減少に加え、燃料費の高騰は専業漁家の家計を直撃していますが、内助の功もあり、一念発起の啓一さんは弱音を吐かず、懸命にがんばっているのです。島に生まれた男が、島に戻り、島のために生きようとしています。父が見せた背中を今度は自分の子どもたちに見せようとしているのでしよう。まだまだ道は険しく、むきな挑戦は続いていきます。

『☆手作りの博覧会を考える☆』「島博覧会実行委員会」を設立

松山離島振興協会が、島嶼部活性化のための起爆剤と考えている松山島博覧会『しまはく』。平成17年度に松山市が開催した広聴事業「みんなのまつやま夢工房」で市長に対し提言した活性化策のひとつです。あれから3年。その間、平成18年3月の「松山しまサミット」の開催などを経て、ついに【松山島博覧会実行委員会】が立ち上がる運びとなりました。設立総会は、来る12月下旬の予定。実行委員会は、理事会と各島の代表並びに関係機関代表などが参加する研究部会のほか、行政の事務局・プロジェクトチームで構成されます。実行委員会では、今後、各島のご意見等を盛り込みながら準備を進めるとのことですので、ご協力のほどよろしくお願いします。



しまサミットのポスター

「忽那の島々で文化交流」／10月4日『古三津子ども虎舞い保存会』



二神島で古三津伝統の虎舞いを披露

宮前地区の古三津に古くから伝統芸能として伝えられる虎舞いを、子どもたちに継承させようと結成されたのが『古三津子ども虎舞い保存会』です。保存会の田中静江会長は常々、子どもたちにお披露目の場を作ってあげたいと考えていたところ、たまたま子どもの中に二神島におばあちゃんのいる子がいたことから、今回、協会との協働での文化交流事業が実現したものです。二神地区と上怒和地区で舞いを披露した子どもたちは、島のお年寄りたちから大絶賛を受け、船旅の疲れも見せず、得意気な様子でした。協会では、今後も、機会を見て、こうした交流に努めていきたいと考えています。

【地域産業部】

みかんの季節になってきました。温州みかんと伊予柑しかなかった時代からすると、なんと種類の多い果物に成長したのでしょうか。特産品の売り場ではいつも、紅マドンナやせとか、カラマンダリン、はるか、はるみなど、新品種の説明をするのにひと苦労しています。でも、お客さまの「美味しい」のひと声で、元気倍増するのはなぜかしら。実のところ、島の特産品が雄弁に物語る“島の魅力”の前には、余計な言葉など要らないのかもしれないかもしれませんね。

《お問い合わせ・お申し込み》

部長 島原和暁

TEL.961-3293



【観光振興部】

今年度、『ボランティアガイド養成事業』として「忽那諸島ガイド研究会」「お先達養成講座」を実施しており、それら事業の成果品として「ボランティアガイド・マニュアル」「歩き遍路マップ」をそれぞれ作成するべく作業に取りかかっています。

また、イラストマップの作成は、松山島博覧会の対象範囲に北条地区の観光名所『鹿島』が正式参入したことを受け、今年度、「中島」のマップと併せ、『鹿島』のマップも作成しています。

《お問い合わせ・お申し込み》

部長 田中 治

TEL.998-0243



【しまづくり部】

「みんなのまつやま夢工房」で『しまはく』の提案とともに提言し、現在、造船が進められているのが、島嶼部の安全・安心を守る要ともなる『消防救急艇』です。

先頃、一般に広く船名の募集を行い、「はやぶさ」と命名されました。平成21年秋からの運用に向け、急ピッチでの準備がなされているようで、頼もしくうれしい限りであります。

《お問い合わせ・お申し込み》

部長 内藤久司

TEL.998-0606



ホームページへご意見、ご感想をお寄せください

<http://iland-matsuyama.infoseek.ne.jp>



☆ 松山離島振興協会は、会員のみなさんの会費によって運営されています☆

☆ あなたも会員になって、いっしょに活動しませんか☆